

知多都市計画道路の変更に向けた説明会 8月24日（日）開催分 質疑応答内容

日 時	令和7年8月24日（日） 10:00～11:00
場 所	武豊町地域交流センター多目的ホールABC
Q1. 整備完了までは100年くらいかかるのか。 A1. 整備完了の具体的な時期については、現段階では明言できない。 Q2. 武豊港線は通行や横断の際に危険である。暫定的な整備として道路の安全確保をする考えはないか。 A2. 暫定的な整備は考えていない。 Q3. 事業の設備投資に影響がある。いつ頃に、どのような手続きがあるのか教えてほしい。 A3. 都市計画変更の決定が予定通り令和8年3月にされれば、事業認可を取得して、都市計画事業の説明会を令和9年度頃に開催することができる。その後、用地測量・境界確定を行っていく形となる。 道路の供用開始時期については、移転補償・用地買収に時間がかかることがあるため、具体的な時期をお伝え出来ないが、県としても事業を早く進めていきたいという思いである。 Q4. 今回の都市計画変更の区間で、過去にどのくらい事故が発生しているのか把握しているか。 A4. 具体的な発生件数は把握していないが、実際に何件かは事故が発生しているため、安全上問題があると認識している。 Q5. スケジュールについて、町や県の計画で決まっていないのか。 A5. 整備時期をこの場で明言することは難しい。 Q6. 整備時期は、いつごろ明確になるのか。 A6. 事業認可取得後の都市計画事業の説明会の際には、本日の説明会よりも具体的なお話しができると思う。 Q7. 都市計画事業の説明会はいつ開催の予定か。 A7. 令和9年度頃の予定である。 Q8. 用地測量はどれくらいかかる予定か。 A8. 件数や面積が確定していないため、明言できない。 Q9. 岩部建設までの工事について、現在1期の工事中であるとのことであるが、今後2期工事、3期工事となっていくのか。 A9. 現在行っている工事については、岩部建設さんまでの区間を一連の工事として、令和9年度完了を目途にやっていく。岩部建設さんから東側については、まずは都市計画の変更を行い、都市計画事業の認可の取得に向けて動いていくことになる。 Q10. 意見書の提出はいつどこですることができるか。 A10. 都市計画変更（案）の縦覧は、11月の中旬に2週間予定をしており、その際に意見書を	

提出することができる。場所は、武豊町役場都市計画課及び愛知県都市計画課となる。

Q11. 都市計画道路の線形をＪＲ用地側に移動させれば、沿道住民の土地を買収するような線形にしなくても良いはずである。ＪＲと交渉はしていないのか。

A11. 今回変更する都市計画道路の線形については、ＪＲとも協議をしながら決定させていただいている。都市計画道路の線形をＪＲ用地側に移動させることについては、高压線の撤去や駅舎の移転等が必要となるため、困難である。

Q12. 現在事業中の箇所については、どれくらいの年数でやってきたのか。

A12. 現在事業中の箇所については、平成24年の都市計画決定の変更から、工事の完了が令和9年の予定であるため、15年くらいの期間となる。

Q13. 駅前広場について、広場内に構造物を設置したりする計画はあるか。

A13. ポストコーンなどを設置する箇所がある。歩道については車道よりも少し高くする整備になると思う。

Q14. 春祭りの際に、山車が駅前広場に入る。支障になるものについて、取り外しをすることができるか。

A14. 祭礼関係者の方と協議しながら設計を行っている。今後、詳細な設計をする際にも、祭礼を行うことができるように関係者と協議を行っていく。

Q15. 丁字路部分のＪＲフェンスが高くて見通しが悪く危険である。都市計画道路が整備されるより前にＪＲと協議をして、このフェンスだけでも移動できないか。

A15. 今回の都市計画道路の整備事業としては、暫定的な整備は考えていない。

Q16. 都市計画道路の線形をＪＲ用地から緩やかなカーブにする案が良いと思うが、今までそういった話をＪＲとしてきたのか、また、今後はする予定があるのか。

A16. ＪＲと調整をさせていただいた上で、今回お示した図面となっている。必要なＪＲ用地の買収については、今後もＪＲと調整を行っていく。

知多都市計画道路の変更に向けた説明会 8月26日（火）開催分 質疑応答内容

日 時	令和7年8月26日（火） 19:00～20:10
場 所	武豊町地域交流センター多目的ホールABC
Q1. ラウンドアバウトを設置した場合に安全性は確保されるのか。車ではなく、歩行者に対してどうかをお伺いしたい。 A1. 武豊港線は、交通量が比較的少ない道路であるため、ラウンドアバウト方式が有効であると考えている。歩行者に対しての安全性の確保については、ラウンドアバウトの通行方法について、現場での説明会を開催する等、安全教育等を行うことが考えられる。 Q2. ラウンドアバウトを整備することにより、本当に車の速度が落ちるのか。 A2. 通行する車はラウンドアバウトに進入する際に減速をする必要があるため、ラウンドアバウトの直前から車の速度が落ちるものと考えている。信号交差点の場合だと、青信号で減速せずに車が通行することも考えられ、ラウンドアバウトの方が信号交差点よりも、速度は落ちると考えている。 Q3. 横断歩道は設置するのか。 A3. ラウンドアバウトの周囲に横断歩道を新設する計画である。 Q4. ラウンドアバウトの大きさについて、大型車が回れるということをシミュレーションしたのか。 A4. 大型車も基本的に回れる設計となっている。トレーラーなど特に大きい車両についても、エプロン部分を使用することで、通行することができると考えている。 Q5. ラウンドアバウトの用地について、JR側へ用地をかけることを検討しなかったのか。 A5. JR側へ用地をかける場合、高圧線や駅舎の移設等が必要になり、移設工事が大掛かりになることが見込まれるため、可能な限りJRの土地には用地をかけない計画とさせていただいている。 Q6. ラウンドアバウトの南側にある町道（金下・里中第1号線）について、現在、南進のみの一方通行となっているが、ラウンドアバウトの整備後は交互通行となるのか。 A6. 金下・里中第1号線については、ラウンドアバウトの整備に併せて交互通行ができるように、検討していきたいと考えている。 Q7. 道路幅員が広くなることで、カートを押したお年寄り等、歩行が不自由な方にとっては、今よりも長い距離を横断しなければならないため、安全性が低くなると考える。そのことについて、どのように考えているのか。 A7. ラウンドアバウトを採用することで、確かに横断距離は長くなるものの、ラウンドアバウト付近では車は減速するため、ラウンドアバウト付近の横断歩道を使用することで、事故は少なくなると考えている。 Q8. 通勤・通学の時間帯などの交通量や人の流れについて、調査などはしているのか。 A8. 将来的な交通量について推計調査を行っている。今回の都市計画変更に係る箇所については、1日当たり約9300台の車が通行すると考えている。ラウンドアバウトについて	

も、交通量の調査結果を基に警察と協議を行った結果、計画をさせていただいている。

Q 9. 意見書の提出について、提出方法が曖昧である。

A 9. 11月に予定している都市計画変更（案）の縦覧期間中に、武豊町役場都市計画課、又は愛知県都市計画課にて提出することができる。縦覧の期間は、2週間を予定している。

Q10. 今の予定では、何年に完成するのかを教えてください。

A10. 完成までの年数については、用地買収や移転補償の話を個別に進めていくため、どの程度時間がかかるのか読めないところである。ただし、ひとつの参考事例として、（現在工事中の）名鉄の踏切から岩部建設さんまでの区間については、平成24年の都市計画変更の決定から令和9年度の完成予定まで、15年程度かかっているため、今回の区間についても、事情が違う部分もあるが、同じくらいの延長であるため、完成まで15年程度、可能であればそれよりも早く完成させたい。そういった規模感で現在手続きを行っているところである。

Q11. 交通量について推計したということであるが、今後、庁舎移転、地域公共交通の改変や武豊北ICの開通などがあり、調査時と比較して交通量にも大きな変化があると思う。それを踏まえた上で、今このタイミングでこの計画を立てることが最適だという判断なのか。

A11. 交通量の推計については、公表されている交通センサスや、実際に職員が実測で調査をした結果を基に行っている。周辺の都市計画道路などが将来的にできたと仮定して、車がどの程度分散するか等のシミュレーションした結果、1日あたり約9300台の車が武豊港線を通るという推計となっている。

Q12. ラウンドアバウトについて、県庁付近のものを通行したことがあるが、大型で長さのある車両が通行できるとは思えない。武豊町は、東西を移動できる道路はあまり多くないが、武豊港線を大型車両が通行できないことで、他の道路に流れていくということが懸念される。このことについてどのように考えているのか。

A12. ラウンドアバウト内の大型車の通行については、車両軌跡により検討を行っており、基本的には大型車と言われるダンプやセミトレーラーが通れる幅を確保している。セミトレーラーのような回り難いものについては、1周回ってもらって、回りやすくして出ていくというルール（規制）があり、その規制に係る交通標識についても、警察から指導を受けているため、大型車も通行できる計画となっている。

Q13. ラウンドアバウトが信号よりも安全性が高いということについて、しっかり説明してほしい。

A13. ラウンドアバウトと信号の安全性の検討については、今回計画をしている交差点において、車はJR側から南下し交差点で右折するルートが一番多くなる。町道が交差通行化すると、町道から北上してくる車が、2番目に交通量の多いルートとなる。交差点に信号の設置を検討した際に、右折が主交通になる交差点に信号を設置することは、危険であるため難しいと警察から意見をいただいている。ラウンドアバウトの場合は右折車両も回転しながら安全に通行できるため、警察との協議の結果、ラウンドアバウトを採用させていただいている。

Q14. 横断歩道の真ん中に分離島というものがある。整備としては、10cmくらい盛り上げた段差とするのか、道路と同じ高さで平らに整備するのか。もし盛り上げた段差とす

る場合、ベビーカーや手押し車は通れないのではないかと懸念している。

A14. 基本的に道路と同じ高さとなる。点字ブロックを設置するかどうか等、詳細については、実際に工事をする際に警察と協議をしながら決めていくが、基本的には段差はできない、できても1 cm、2 cmになる予定である。